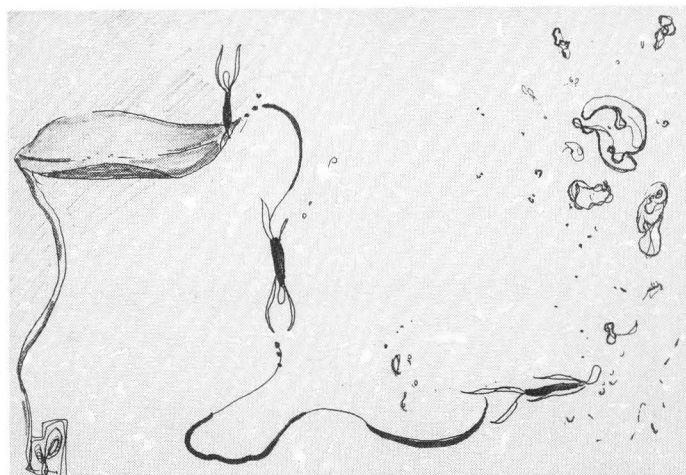


愛知・長田の会

五年後の長田を歩く

九五年（平成七）四月から五月にかけて兵庫高校、荻藻中学校などの避難所運営に携わられた愛知県下の七市町の二十人が五年後の長田の街を訪ねて来られた。

世話人の春日井市の小黒清光さんは「当時の貴重な体験を行政に役立てたいと（愛



知・長田の会」を結成し交流会を開いている」と教えてくれた。

皆さんは四月二十二日十時に名古屋を出発し、午後一時に当資料室に着かれて「五年間の長田」を語り合った。当時の避難所は四月から新しい体制で運営が始まったばかりで苦労が多かった時である。皆さんは当時の避難所のリーダーだった方々とも再

復興状況を議会活動へ

飯田市議会総務文教委員会

五月晴れの十六日、長野県飯田市議会の総務文教委員会の一行十二人が復興状況の視察に来られた。

九時五十分にはバスが到着し議会事務局の吉川元勝さんと一年ぶりの挨拶を交わし、長田の町並みが望める七階会議室で震災時の避難生活や復興の街づくりについて真陽防災福祉コミュニティの正賀さんの報告を聞き意見交換を行った。

最も関心が高かったのは再開発と区画



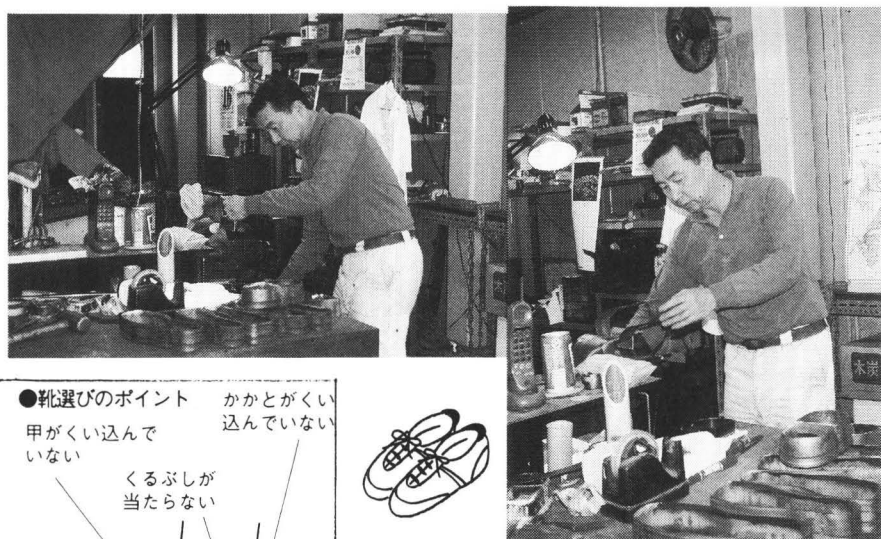
会をされ親交を深められた。

夜は、当時の応援職員用の太山寺保養センターで宿泊をされ、翌日は淡路・北淡町の震災記念館へ向かわれた。岡崎市の杉浦さんは「長田は私どもにとってつくづく思い入れのある土地になっている」と感慨深げであった。



整理事業の決定過程と進捗状況についてであった。続いて新長田駅北・南地区を歩かれ勉強をされた。

飯田市との交流は震災時の自治労ボランティアが縁で今日まで地域ぐるみで続いている。木下区長は「来年の感謝の催しにもぜひ来てほしい」と願ったという。



人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた

震災資料室 発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311

発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第42号

もくじ

- 1 職人の技 五十五年の経験と勘
- 2 文化財レスキュー隊②
- 3 「自治研」・フリーマーケット
- 4 愛知「長田の会」・飯田市議会

職人の技 五十五年の経験と勘

建物の入り口には「松葉抜型製作所」の小さな看板が掛かっている。

アルミ戸を開けると約十坪の工場の土間にはグライダーが据えつけられ中央には作業台が置かれている。五センチ程の厚さの天板には万力が固定され様々な鏝（やすり）が並べられている。

田中幸夫さん（51才）はこの道二十五年

になり、義父の代からだといふ五十五年にもなる。ケミカルシューズの工程を大きく分けると商品企画→型紙製作→裁断→縫製→吊り込み→本底圧着→仕上検品



●靴選びのポイント
甲がくい込んでいない
かかとがくい込んでいない
くるぶしが当たらない
つま先が当たらない
正しい重心の位置
アーチが合っている
指が自由に動く
トップラインが開いていない

となるが抜型は型紙製作の次の作業で実工程のスタート台の位置づけになる。

型紙に合わせて抜型をつくりグライダーで研磨し最後は目の細かい鏝で仕上げる→自動化されてきている中で職人の腕が出せる「手作業」の世界だ。

受注から納品まで三・四日から一週間だがサンプルはその日のうちに納めるという。震災後、プレハブの仮設の折にはBBC放送が取材にきたそうだ。

田中さんは「足は第二の心臓と言われ、自分の足に合った靴を選びなさい」と教えてくれる。また「二・三時間で自分の靴づくりが体験できる場所があれば楽しい」と語ってくれた。

文化財の被害調査^②

文化財レスキュー隊 佐藤定義
(神戸市住宅局住環境整備課)

また、宝満時(長田区東尻池町2丁目)の木造大日如来坐像(当時指定文化財)は、レスキュー隊により保護されたあと、美術院で修理を受けた際、像の内部が内側の前半分には金箔が、後半分には銀箔が施されていることが確認され、さらに内部に高さ三、五cmの木造大日如来坐像や経典などが収められていることが分かり、修理後、国の文化財保護審議会の答申により平成9年6月に国指定重要文化財となりました。

東灘区の旧家井上家では、市街地に残る貴重な19世紀前期の葦葺の母屋が地震により倒壊し、保管されていた古文書の保護にあたっては、個人の力では到底無理な状態でしたがレスキュー隊によって無事古文書は救出されました。

おわりに
レスキュー事業の要請があつたのは、

35件、救援実施が16件となっていますがもっとも必要性に迫られていたはずですが、しかし残念ながら広報不足とわが国初めての試みということで、人手と資金に限りがあり、思ったような活動が出来なかった気がします。しかし、この試みは将来の大規模災害へのいい経験になったはずで今後私たちは、二度と埋もれた貴重な資料を失うことのないように文化財レスキューの効果的な活動のためのシステムを全体の課題として考えていく必要があるのではないのでしょうか。



参考資料

「阪神・淡路大震災文化財等救援事業」
・文化財レスキュー事業
兵庫県教育委員会発行

木造大日如来坐像(国指定重要文化財)

「西摂大観」にある寺記及び古文書などによれば、宝満寺は大同3年(808年)弘法大師が開創し、もと和田山の字寺山(現在の兵庫区和田山付近)にあったが、治承4年(1180)平清盛が、福原内裏造築のとき現在地に移したと伝えられている。寿永3年(1184)源平による一の谷の合戦で伽藍の大部分を焼失したが、文永3年(1266)龜山天皇の勅命で法燈圓明国師によって、禅寺として再建されたという。また、建武年中(1334-1336)には足利尊氏の崇敬を受け、伽藍の修復及び寺領を寄進されたことが見られる。のち、天正7年(1579)荒木村重により寺縁を没収され、伽藍は焼き討ちに遭い衰退する。

昭和20年(1945)6月5日、米軍による空襲で宝満寺は全焼し、寺史に関する文書資料は焼失するものの、大日如来坐像といくつかの寺宝は、境内の枯れ井戸に隠されていて被災を免れた。

平成7年(1995)1月17日の阪神淡路大震災で伽藍の礎が損傷を被ったが、幸いにも火災からは免れ修復された。

月間自治研3月号

特集「震災5年再びあの被災地へ」

「あれから五年。新建築は完成しても社会の矛盾は拡大している。神戸市民の悪戦苦闘から現代社会に共に生きる私たちが学びとることは尽きない。」

「被災者の生活再建」

月間自治研3月号では次の十一の論文、報告による震災復興の検証を特集している。

『市街地復興と都市計画』高寄昇三著(元神戸市職員で現甲南大学教授)

『都市の復興を考える』日野孝雄著(元姫路独協大教員 長田文化協議会事務局長)

『地方財政制度と震災復興』永松伸吾著(中央大卒 阪大大学院博士課程在籍)

『神戸の生活再建・五年の取り組み』後藤範三著(神戸市生活再建本部調整課長)

『被災者の生活再建——復興をサポーターする立場から』龍野和美著(神戸市職労衛生支部副支部長)

『復興を自立の足がかりに』村井雅清著(神戸市生まれ 阪神淡路大震災被災地NGO協働センター代表)

『あれから五年 忘災との闘いがはじまった』桑島宗利著(新宿区職員労働組合執行委員 現評事務局長)

『支援活動への参加』岡本佳宏著(飯田市三穂公民館勤務)

『コミュニティを紡ぎ出す——地域復興の取り組み』李圭燮著(関大経済学部卒 エフエムわいわいゼネラルマネージャー)

『震災から問われる住民自治』金泰煥著(在日韓国民団西神戸支部副団長)

『エスニックマイノリティから見た神戸の五年』金宣吉著(長田区居住 神戸定住外国人支援センター副代表)

様々な視点から貴重な提言が含まれており、ぜひ一読してみたい一冊だ。(定価六〇〇円。ご希望の方は震災資料室まで。)

自治研

人びとが自治体をつくる
人びとが自治体と政府が世界をつくる



3 震災5年 再びあの被災地へ

賑やかに
フリーマーケット

JR新長田駅南側の大正筋や本町筋を中心に新長田まるごとフリーマーケットが催され多くの若者が出店をだしたり、買い物をしたりして大いに賑わった。

今回の催しの呼びかけは新長田まちづくり会社で、商店街のポケット広場ではライブが行われた。メインステージは震災時、テント村であった南駒栄公園に置かれ新進気鋭のミュージシャン達がグランプリを競いあった。神撫太鼓となかよし太鼓の皆さんも出演され大きい拍手を浴びた。

今回の催しに併せてあすたギャラリーでは、長田の街の歴史変遷展と震災資料室展も開かれている。

歴史展では長田神社が節分の時に行う追儺式の鬼の面も特別に出展された。